



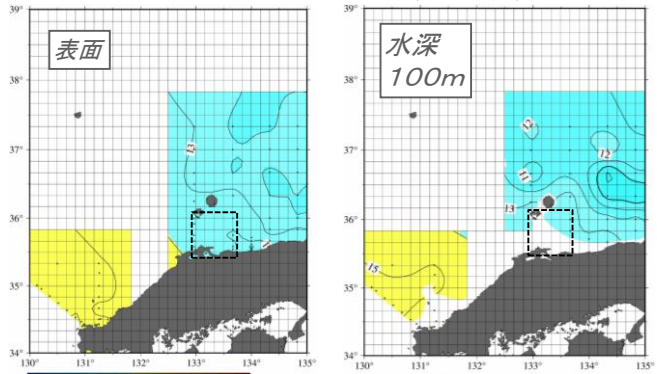
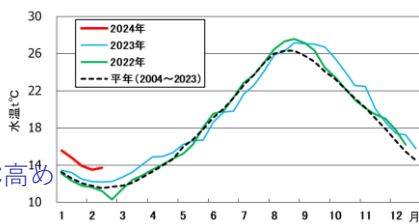
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽

(電話:0858-34-3321)

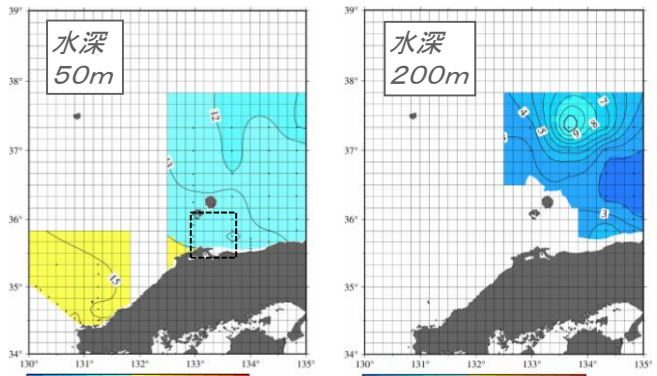
2月中旬 13.1℃

平年より 2.2℃高い



鳥取海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は13.2℃(11.8～14.9℃)を示しています。【前年差:-0.2℃、平年(直近30年)差:+0.2℃】

平均水温は15.7℃(13.1～18.3℃)を示しています。【前年差:+0.3℃、平年(直近30年)差:+0.6℃】



平均水温は18.3℃(16.8～19.9℃)を示しています。【前年差:-0.9℃、平年(直近30年)差:+0.2℃】

鳥取県北東方N37°20'付近に6℃以上を示す暖水域があります。

水産試験場

沖底で漁獲されるヒレグロの基礎的生態について調べました

ヒレグロは鳥取県東部では「やまがれい」、鳥取県西部では「べらんすがれい」と称され沖底魚種の中でも地元では大衆魚となじみの深い魚です。一方で、ハタハタ等の加工原魚の漁獲が低迷する中、ヒレグロは代替品として利用されるニーズが高まっており、狙い操業が増え、資源への影響等についても懸念される点が増えてきました。

そこで水産試験場では、新たな資源評価魚種(魚の資源と漁業の健康診断)の対象魚として検討する上で重要な知見となるヒレグロの基礎的生態について調査しました。

2022-2023年に月1回程度ヒレグロを魚体購入し、成熟状況や胃内容物について調べました。(買露市場関係者の皆様、漁業者の皆様、日頃、調査にご協力頂きありがとうございます。ありがとうございましたm(_ _)m)



買露市場ではヒレグロが仕立てられた木箱が「山のように」積まれます←「やまがれい」の由来?

ヒレグロの産卵時期について

ヒレグロの生殖腺指数(体重に対する生殖腺の割合)は3月に最大となり、3-4月が産卵のピークとなっていることがわかりました。

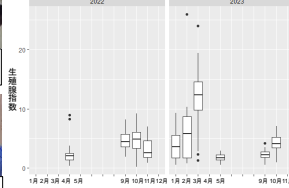
また、12月、1月にも放卵中の個体が確認され、産卵期間が長い、または年に複数回産卵している可能性が推測されました。



卵巣が発達したヒレグロ(2023年3月)

吸卵卵を持つヒレグロ(2023年12月)

ヒレグロの生殖腺指数の推移



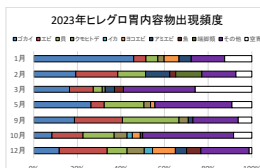
ヒレグロの食性について

胃内容物にはゴカイやエビ類が見られ、ヒレグロはおちよぼ口で海底の泥と一緒にこれらの生物を吸い込むように捕食していると思われる。(ズワイガニの稚ガニも見られました。)

季節的に分布水深が変化するかなど、まだまだ不明な点が多いヒレグロの生態についてですが、今後も調査を進めていきたいと思います。



ヒレグロの胃内容物(上:ゴカイ、下:稚ガニ)



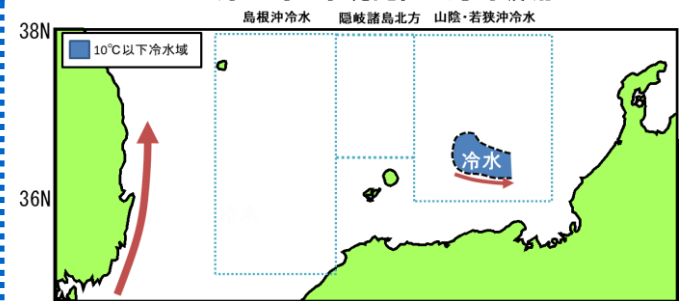
令和5年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町6番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

2月上旬の水塊配置と対馬暖流



島根沖冷水域	隣県で該当海域の観測が出来ず 不明
隠岐諸島北方の冷水域	N38°以北に冷水域(10℃以下)が認められます。
山陰・若狭沖冷水域	鳥取県東部～兵庫県沖N38°10'以北に冷水域(10℃以下)が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れると考えられます。鳥取県東部沖では山陰・若狭沖冷水域に沿ってN38°10'付近を東方に向かう流れが生じている可能性があります。

水産振興課・漁業調整課

⚠️注意喚起⚠️ 漁具・燃料等の盗難について

鳥取県内において、**漁具や小型船の燃料等の盗難が発生**しています。被害に遭わないよう盗難防止対策を実施してください。

<盗難防止対策例>

- 侵入防止**
 - ・「盗難注意」、「立入禁止」等の看板を設置する。
 - ・防犯カメラ等を設置する。
- 保管・管理**
 - ・漁具等を屋外に放置しない。
 - ・作業後は、鍵のかかる屋内や倉庫で保管。
- 通報・情報共有**
 - ・不審者や不審車両を見かけたら110番通報。
 - ・不審者等の目撃情報や盗難被害状況を漁業関係者間で共有。



防犯カメラ作動中!!

また、鳥取県では犯罪を防止するとともに、人権を侵害することのない防犯カメラの適切な設置・管理を図るため、「防犯カメラの設置及び運用に関する指針」を策定しています。防犯カメラをご使用の際は、当該指針に沿って実施してください。

指針全文はとりネットで公開されていますので、ご確認ください。

URL: <https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=102119>

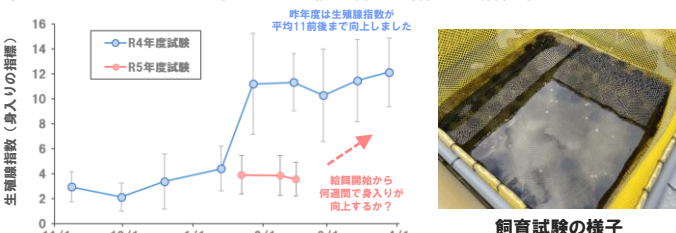


栽培漁業センター

配合飼料によるウニの身入り向上試験を実施中

藻場の衰退の原因として駆除が行われているムラサキウニは、養殖による有効活用の取組も同時に進められています。天然のムラサキウニは、餌環境によって身(生殖腺)の入り具合に個体差があり、商材としては評価が低いため、鳥取県漁協の青谷支所、泊支所の方々が発見し身入りを向上させて出荷する取組が行われています。

当センターでは、令和元年度からウニの養殖試験に取り組んでおり、今年度も様々な試験を実施しています。現在は、配合飼料を給餌することでウニの身入りが大きく向上した昨年度の試験結果をふまえ、条件を変えて追試を行っており、得られた結果をもとに漁業者への指導・支援を行っていきます。



飼育試験の様子

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530